

☆学習指導

- ・「困ったときや分からないときにペアやグループの友だちにたずねることができる」「友達の話をしっかり聴くことができる」「学校で意欲的に学習に取り組んでいる」と回答した児童が 95%を超え、「よくできている」と回答した児童の割合が増えました。これより、本校の「わからないこと」を学びの中心に据えた授業が、継続した取り組みにより児童に定着し、その学習意欲を引き出していることがわかりました。そして、「ICT を活用した学び合いや聴き合い、学び合う授業」に対する保護者の肯定的な回答が 95%を超え、本校の取り組みは、学力向上に一定の成果を出していることが確認できました。一方、子どもの家庭学習の習慣化では、保護者の「協力できている」という回答が 80%弱でした。タブレットドリルの導入や自主学習ノートの取り組み等により、児童の家庭学習の意欲は低くありませんが、学びに対する主体的な態度を育てていくために、保護者との連携の在り方を模索し、その習慣化に取り組んでいきます。
- ・読書については、「意欲的に読書に取り組んでいる」と回答した児童は 83%、保護者による評価は 51%と本校の弱みといえます。学校では、今年度も「学習支援員による読み聞かせ」や「図書館司書によるブックトーク」或いは「図書委員による本の紹介コーナー」の設置等、読書への興味関心を高めるための様々な取り組みを行い、意欲的に本を読んでいる子どもの姿もあることから、今回の結果を家庭での読書量の減少と捉えました。放課後の児童を取り巻く環境がその背景にあります。豊かな生活づくりの視点から読書習慣づくりに、家庭や地域と連携した取り組みを継続していきます。

☆生活指導・心の教育

- ・学校満足度の指標となる「学校へ楽しく通っている」の項目は、児童でも保護者でも高い評価を得ました。更に、ほぼ全員の児童が「友だちと仲良く過ごしている」「いじめをいけないことと思う」と回答し、本校の児童は、高い人権意識をもち、思いやりのある行動ができるとわかりました。今後も「全ての児童の楽しい学校」であるために、一人一人を認め合う仲間づくりと人権感覚を磨く取り組みを継続します。
- ・今年度は、外部講師による出前授業を積極的に行い、弁護士、助産師、警察官或いはプロの演奏家と“様々な職業の人との出会い”や東日本大震災を体験した“当事者との出会い”が実現しました。ところが「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童の割合が 80%でした。また、児童会を中心に取り組んできた挨拶についての肯定的な回答も 90%に至りませんでした。今後も、人との出会いや挨拶をキャリア教育の視点で見直し、社会の中で人とともに生きる心を育む取り組みを進めていきます。
- ・95%の児童が「身近に相談のできる人がいる」と回答しましたが、「自分にはよいところがある」の回答は、90%を切りました。今年度もコロナ禍における社会的な不安が児童に及ぼす影響に配慮し、スクールカウンセラーによる心の授業や通信を通してストレスの軽減を図る取り組みを行いました。引き続き、教育相談体制の充実や特別支援教育の推進を図り、問題の早期発見・早期対応に努めていきます。

☆健康・安全指導

- ・業間休みには教員も外へ出て子どもたちと遊ぶように努めてきた結果、進んで外で遊ぶ児童の割合が増えました。それから、生活リズムチェックカードや「早寝・早起き・朝ごはん」をテーマにしたオンライン講演会等、年間を通じた生活リズム向上の取り組みにより、「生活リズムを守り、規則正しい生活を送っている」と回答した児童の割合が増えました。しかし、メディアの使用に関する項目では、家庭で決めたルールを「守れている」と回答した児童が 7割に留まり、継続した取り組みが必要であることがわかりました。今後は生活リズム向上の取り組みを児童の主体的な取り組みとなるよう工夫していきます。
- ・防災教育や性被害予防教育を進め、97%の保護者が「自分の身を守るために必要な学習を行っている」と回答しました。しかし、廊下を走ったり、誤った遊具の使い方をしたりしてケガをする児童が増えています。子どもの実態を捉え、情報の発信と必要な安全教育を保護者、地域と連携して進めていきます。